



作家  
元国際線乗務員  
**黒木安馬**

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に「ファーストクラスの心配り」、「あなたの人格以上は売れない!」(プレジデント社)、「成「幸」学」(講談社)、「出過ぎる杭は打ちにくい!」(サンマーク出版)、「面白くなくちゃ人生じゃない!」(ロングセラーズ)、「小説・球磨川」(上下巻・ワニブックス)などがある。  
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.7b.biglobe.ne.jp/~sanpercent-club/

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 242

## 日本一の洋菓子職人

20数年前、森永乳業や明治乳業など大手業界団体連合会主催で、有馬温泉で開催された黒木安馬講演会。全国の著名な洋菓子メーカーのトップ経営者が集合しての大会だった。当時、私はまだJAL国際線の“飛び職”だったが、『出過ぎる杭は打ちにくい!』などの著作が世間で評判になっており、講演依頼が多く来てフライト休みには各地に出かけていた。その芦屋に近い温泉地での講演会で、後に私が主宰する自分磨き全国塾【3%の会】発起人の一人になっていただく、バウムクーヘンの西正興氏と知り合って大宴会になった。翌日、神戸の高級洋菓子メーカーの比屋根毅社長から、講演内容に大変感激したから、次の熱海での黒木講演会には、弟の比屋根健にも是非出席するよう伝えたと電話があり、感激や感想を記入したFAXまでいただいた。まさに人格者で勉強家、努力と実践家で、「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」で、夢と希望と信念の人だ。

**比**屋根毅は1937年、石垣島に生まれ、15歳で那覇市へ渡って職を転々とする。洋菓子店でアルバイトをしながら通信士を目指す。洋菓子の魅力に取りつかれる。米国管轄の沖縄から本土の大阪へ行く時にはパスポートが必要な時代で、製菓会社の面接で「日本語は話せるか?」と聞かれ、負けるものか!と発奮して修行に打ち込む。職人が自分で作った菓子を喫茶店やパン屋に直接売りに行かされる時代。売れ残ったら給料から差し引かれるから必死だった。生活が苦しく、空手を教えていた弟子たちに道頓堀のエビス橋でケーキを並べて売らせた。捨て身の作戦が当たって売り上げはトップになり、そうだと将来は売上100億円の会社を目指そうと決意する。SONYの盛田、HONDAの本田宗一郎が言う、「成功するには大風呂敷を広げて有言実行だ!」が目標だった。そして日記には「菓子屋のSONYになる!」としたためた。岩場で咲きほこ

る花のように辛抱強く……との思いを込めて社名を「エーデルワイス」と名付ける。味の世界に行きつく所はない! 弟子たちの成長こそが財産と、納得できるまで何度も作り直させる完璧にこだわった職人づくりの日々。国内の有名菓子店で修業を積み、尼崎市でエーデルワイス創業以来、早くから海外に目を向け、ヨーロッパの有名店で修業を重ねて本場の技術を導入すると同時に、いち早く海外ブランドとの業務提携を結んで業界の先駆者となる。修業時代より数々の洋菓子コンテストに出場し、国内外で10回連続優勝をはじめ、全国洋菓子技術コンテスト・内閣総理大臣賞、ワールドケーキフェア・世界洋菓子連盟会長賞グランプリなど、100を超す受賞歴を誇るまでになる。だが、創業7年目に年間売上に相当する金額で中央研究所を借金で建設したが、売上金を持ち逃げされるなど災難続きに陥る。それでも、育てた職人たちは一人も裏切らずに仕事に励んでくれた。苦しみの中からはしか人間としての成長はない、楽をしようとしたらダメ、神様は絶対に良いことは与えてくれない、神様はもっと大きくなれよと試練を与えてくれたのだ!と、社是を「忍耐と信用」とする。信念が道をひらく、空手で培った不屈の精神、喜びも悲しみも社員とともに、偉大な先輩から受けた薫陶、ヨーロッパでの武者修行、敵を作らず、他人を恨まず、人を育てる、人材教育はまずその部下を好きになれ、いい顔に素直な心が宿る、仕事は人生そのもの……半世紀、無我夢中で洋菓子の道を歩き続けた“日本一の洋菓子職人”の波瀾万丈の人生と哲学。EDELWEISS会長、日本洋菓子協会連合会副会長、比屋根毅、先日82歳で天国へ旅立つ悲報が届いた。

**月**刊誌『致知』でも「仕事魂」の内容で比屋根毅氏が本になって発売された。佳き、“生き方の達人”との出逢い、私の宝の一人であった。合掌……。